

故（父）松下盛行顕彰碑の建立



関係者の皆さんに除幕式をしていただきました。



砥部町、砥部町土地改良区、愛
林会の皆様のご尽力により、父盛
行の顕彰碑を銚子ダム公園に建立
していただきました。父は、昨年
2月に亡くなりましたが、生前、
町議会議員として銚子ダムの建設
と、その灌漑配水事業かんがいに携わらせ
ていただき、顕彰碑建立の運びと
なりました。関係者の皆様に心か
ら感謝いたします。

顕彰碑は、旧砥部町の町有林経
営に力を注いだ亀井官次郎、佐野
衆太郎翁の碑の側に立っています。

す。文字は、山本敏孝前県議会議
員の筆によるもので、楷書の立派
な文字です。銚子ダム公園に足を
運ぶことができましたら、ご覧に
なってください。



日本の未来のために — 神政連 —
「変わらない農村の姿」
地域の小さな歴史の中に



愛媛県議会自由民主党
神道議員連盟

松下 行吉

愛媛県伊予郡砥部町岩谷口。私の住む地区を示す住居表示です。大学で県外に出た四年間を除き、私は、六十年になろうとする歳月をここで過ごしてきました。

私の手元に「岩谷口百年史」と書かれた冊子があります。地区の有志によって平成十四年三月に発行されたもので、明治、大正そして昭和の時代、地区の様子と人々の暮らし振りを記録しています。表紙をめくると「岩谷口の歴史を支えた人々」として、地元の人々を祭る、熊野神社の前で、八十余名の男たちを写した集合写真があります。戦前のものだと思いますが、おそらく全員、家長なので

しょう、着物に羽織をまとい、厳めしく写っています。周囲の様子もその写真のまま残っています。

百年史には、熊野神社、社格末社、祭神国常立尊、速玉男尊、大山積神、境内神社は天神社（菅家神霊）とあり、続いて「熊野神社の境内（鎮守の森）」として、「熊野の権現さん」と年寄りや子供がいたが大木の繁った鎮守の森だった。四季を通じてそれぞれに子供の遊びの天国であった。夏は大人の昼寝の場所であり、大人と子供のふれあいの場でもあった。平成の今も児童館ができて子供の歓声の広場である。」と書かれています。

鳥居の横には、ずんぐりとした丸い石が二つ、無造作に転がっています。これは「力石」と呼ばれる石で、若者がこの石に組み付き、力試しをしていました。どこの農村にもあったもので、米俵（六十キログラム）より軽いものは無いでしょう。再び百年史をみると、「夕食を腹いっぱい食べた若い者がお宮に集まってくる。誰かからもなくこの「力石」に組み付き「今日は地切りが出来た」とか「脛まで上がった」「胸まで上げた」とわいわい力比べが続く：やがて獅子太鼓が鳴りだして獅子の練習に入る」と当時を知る人だけが記述できる表現があります。

今は、力石で力比べをすることはなくなりましたが、獅子舞は継承され、続いています。現在の秋祭りは十月七日。今でもこの日に向かつて、毎年八月の終わりのころから神社の拜殿で、獅子舞の練習が始まります。トンチキ、トンチキ、トンチキと、獅子太鼓が鳴りだすと、保存会のメンバーが集まってきます。大太鼓の旋律の中を縫って小太鼓が隙間を埋めるように軽妙な音色で走りだし、ド

ゴ、チャン、ヒネ、そしてオヤジ（ヤを高く言う）と練習を重ね、酒を酌み交わし、世間話を楽しんで、やがて解散。晩夏から初秋へ、半袖、半ズボンで練習していたメンバーが、長袖、長ズボンになって、月がきれいになる頃まで、練習が続きます。

市町村は、時代の流れの中で、大きいことは良いことだと合併を繰り返して、姿を変えてきました。農村の姿、本質は変わりませんが、人々は、ごく自然に神社に集まり、四季の行事を行い、歴史を刻んでいきます。唯一絶対の神を頂き、他者を許さない一神教に対して、日本の神々は自然の中に宿り、寛容な視線で人々を見守ってきました。私は、今年還暦を迎えますが、私の曾祖父、祖父、父がそうであったように、この地で生き続け、地域の小さな歴史の一つになれることを願っています。